

社団法人心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>岡林 春雄 (おかばやし はるお)</p>	<p>所属</p>	<p>山梨大学教育人間科学部</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>ダイナミカルシステム研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 27 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>実施内容： 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学、9 月 19 日) において、 WS044 「指尖脈波のカオストラクタは精神状態を反映するか？ —ダイナミカルシステムの視点からの考察—」</p> <p>を実施。鈴木 平氏 (桜美林大学) から「指尖脈波のカオス解析結果が精神疾患、認知症、不安障害などの精神症状を反映する可能性が示唆されているが、脈派のアトラクタに示されるゆらぎやカオス性が精神状態を反映するということは、脈波の時系列情報に精神性を含めた“人間全体”が反映されているとも言えるのではないか。」という問題提起を受け、アルツハイマー型と脳血管疾患型の認知症患者における脈波のアトラクタの比較検討しながら、脈波のゆらぎ解析の心理学的な意味や意義を追求した。また、カオス時系列解析の方法論についての問題点や疑問点についても取り上げ、カオス研究の方向性についても意見交換を行った。話題提供者は、雄山真弓氏 (関西学院大学)、千野直仁氏 (愛知学院大学)、中川正宣氏 (東京工業大学)、河合優年氏 (武庫川女子大学教育研究所) であり、参加者は延べ 40 人であった。</p> <p>成果： 上記ワークショップは、認知症高齢者など現代社会の中では避けて通れない問題に心理学の立場からアプローチするという重要な意味をもっている。ダイナミカルシステムという観点が具体的なアプローチを導くことにメーカーからも質問が出されていた。また、上記ワークショップ以外にも研究会メンバーは 2 度会合をもち、ダイナミカルシステム理論の向上に努めている。 これまでの研究成果を 岡林春雄 (編集) 「心理学におけるダイナミカルシステム理論」 (金子書房) 2008. にまとめた。</p>		